

O.S.P



VOL.22
February

{ OSPREY / SPIRITUAL / PERFORMER }

無料

ご自由にお取りください

O.S.P
動画

▼
随時更新!!



O.S.Pプロスタッフが
ホームレイクを徹底紙上ガイド

The Field Guide

～中林正臣@冬の野池～



Keep it
on the down low!!

—並木敏成が語る あのルアーの真実—
～晩冬から早春に欠かせない|字系の釣り～

折金一樹が釣れる秘密を暴露します!

オリキン ハイマクール

第4講 ダウンショットリグ



O.S.Pプロスタッフが
シーズンパターンをもとに
おすすめのルアーをご紹介します!

Pro Staff's RECOMMEND

琵琶湖/三宅貴浩

並木敏成&O.S.Pの
最新情報はこちら。

並木敏成 ↓



O.S.P ↓



Journal

1 限目 まずはこの時期の狙いどころを知る。

寒くてもエサをバスは必ずエサを食う
フィーディングの個体は比較的食わせやすい

いくら寒くても、バスはエサを食べています。特に朝夕はフィーディングの個体も多いため、狙うべき場所は必然的にディープフラットとなります。太陽が出るとその場からいなくなったり、いても口を使わなくなったりします。そうするとブレイクや、捕食しやすい水中の岬などが狙いめ。もしくは越冬体勢のバスが身を寄せせる沈みものなどもいいですね。このように時間帯に応じて狙う場所や、ターゲットに据える個体を変えていくのが冬場のセオリーです。中でもフィーディングのサカナは食わせやすい。ダウンショットを使うにしても強めのアクションを入れたり、魚探を見ながらのシューティングで狙っていきましょう。日中でもベイトフィッシュが絡んでいて、バスの姿も魚探上で確認できるときは積極的に広い範囲を探っていくのがベスト。



フィーディングのサカナがフラットにいるときや、水中の沈みものを探るときなど、ディープの釣りか主軸となるか、ベイトフィッシュはどのレンジにいるのかなど、水中の情報を得るために欠かせないギアだ。

2 限目 ダウンショットリグのメリット。

ワームをナチュラルに漂わせる誘いから
リアクション狙いまで汎用性の高さが◎

ダウンショットリグはシンカーが一番下についていることと、リーダーがあるという特性から、ワームを自然に漂わせることができます。またシンカーのウエイトを重くすることで、リアクションバイトを誘発する素早い動きを出すこともできます。ちなみにウエイトを軽くすれば、スミミングで使用することもできるので、非常に汎用性が高いリグと言えるでしょう。また、シンカーよりもワームのほうがアングラーに近い位置にあるため、アタリがとりやすいのもメリット。他のリグの多くは、シンカーの先にワームがありますよね。この差がアタリの取りやすさにつながっています。なので、この時期のようなバスがワームを軽くくわえるだけの超ショートバイトも、比較的わかりやすいと言えますね。



リグの一番下にあるシンカーを起点に、リーダーをうまく操作してワームを漂わせることができるダウンショットリグ。ナチュラルな食わせだけでなく、シンカーを重くすればリアクションバイトの誘発も可能になる。ボトム攻めからスミミングまで、汎用性の高さがウリ。

3 限目 オリキン流ダウンショットリグ。

リーダーは長すぎず短すぎずに設定
フックは根掛かりを防ぐオフセット

ここではボクが実践している、ダウンショットリグについて解説しましょう。まずリーダーですが、あまり長いときやストしくくなります。またカバーなどにリーダーが絡まってしまうことも。目安としては10~15cm。これぐらいが基準となり、たとえば魚探にベイトが浮いている様子が映っていたらそのレンジに合わせて長くしたり、という具合に調整します。

次にフックについてですが、亀山湖は何かと引っかかるものが多いのでオフセットフックが基本。ただし、引っかかるものがないようなところでは、マスバリを使用することもあります。オフセットフックと比べると、やはり掛かりはいい。またストレートワームであれば、ワッキーダウンショットにすることもできます。フックは根掛かりとの兼ね合いで選ぶといいですね。



リーダーは10~15cm程度を基準に、バスおよびベイトフィッシュのレンジや狙う場所の状況に応じて変動させる。根掛かりの多い亀山湖では、オフセットフックを使用することで回避。オープンウォーターではマスバリを使うこともある。

4 限目 ダウンショットリグのアクション。

ボトムで誘いながらより丁寧にトレース
モノに絡めるなら引っかけてシェイク

特にこの時期におけるダウンショットでの誘い方は、いるけど食わないバスに対してしつこく誘うというよりは、食うバスの前にワームを通すことを目指しています。なのでシェイクで執拗に誘うというのではなく、小刻みに「フワ、フワ」と跳ねさせるようなイメージでボトムを引いてきます。ロッドアクションはシェイクっぽく見えるけれど、実際はちょっと移動させてワームをふわっと漂わせる。この繰り返しですね。何かしらの「モノ」を狙う場合は、それに引っかけてシェイクを使い分けています。クイックに動かしてバスに気づかせて、止めたときにふわっとさせて食わせる。この緩急の使い分けが冬のキモです。



シンカーをわずかに浮かせるようなイメージで、軽いバネを引いて、イメージで底を引いてくる。執拗に誘って食わせるというのではなく、バスに気づかせて寄せたあと、リグの移動を止めて「フワッ」とした動きを出して食わせるというのがオリキン流。

5 限目 3タイプのワームを使い分ける。

クロー、スティック、そしてシュリンプ
これら3種のドライブシリーズを使い分ける

この時期にダウンショットリグでよく使うのは、ドライブクロー、ドライブスティック、そしてドライブシュリンプです。ドライブクロー3インチはヘビーダウンショットで使用。ウエイトは5~10gの間で、これは水深と使うロッドの硬さで使い分けています。あとはカバーの密度。入れ込みにくければ重く、簡単に入るなら軽く。また軽ければ食わせ重視、重ければリアクション狙いという使い分けもしています。ドライブスティックは細身のシルエットで、キュキュッとダートする動きが効きますね。重めのシンカーを用いて、一点でのシェイクで使うことも。最後にドライブシュリンプ。これが厳寒期のメインで、深いときは10m前後のディープで使うこともあります。このとき、シンカーは1.8~2.7gをチョイスしています。



特別講座 1 オリキンが密かに気をつけている重要事項をここで学ぶ!!

ウエイトをどう選ぶか

ワームのサイズや狙う水深、場所
さらには誘い方まで考慮して選ぶ

ダウンショットリグの要となるシンカー。このウエイトを選ぶ際は、使用するワームのサイズや狙う水深、カバー絡みなのかオープンなのか、そしてどう誘うのかまで考慮する必要がある。大きなワームを早く沈めたいなら重くするべきだし、カバーにきっちり送り込のであれば、やはり重いシンカーが必要。また自然に食わせることを前提にするなら軽く、リアクション狙いなら重く、などなど。そのとき、どう使うのかをよく考えて選ぶようにしましょう。

特別講座 2 オリキンが密かに気をつけている重要事項をここで学ぶ!!

まずはこれで試してみては?

O.S.Pソフトベイト・トライアルセット
5タイプのワーム+マニュアル付き!

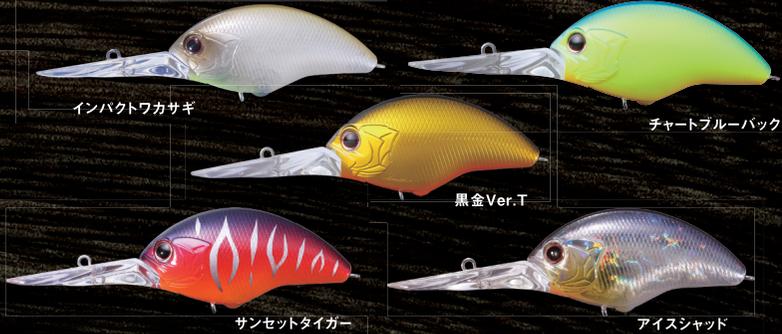
今回ご紹介した3タイプのワームに加えて、HPシャッドテール2.5インチとドライブクローラー3.5インチをそれぞれ1本ずつセットにした「O.S.Pソフトベイト・トライアルセット」が好評発売中。ワームだけでなくO.S.Pプロスタッフがそれぞれのワームの使い方を解説するマニュアルもパッケージ内に含まれている。まずはこのトライアルセットに入っているソフトベイトをお試しいただき、お好みのものを見つけてみてはいかがでしょうか。

冬から早春の定番パターン用



良質の残りグラスや新芽を探すのも重要なキーワードのひとつです!

雪しろなどの濁り攻略用



オーバーライド1/4~1/2オンス

琵琶湖の年末~3月にかけての風物詩ともいえる定番ルアー。岩ノリのようなドロドロのグラスが掛からない、新鮮な低めのグラス、特にセンチンモにオオカナダモが絡んでくるようなエリアで、なおかつブルーギルが溜まる場所での使用がベスト。そのシルエットと絶妙なスライドフォールによりギル食いのバスへの効果は絶大。バスの反応と風の強さなどにより1/4~1/2オンスを使い分けれます。超低活性の2月前半などには小さめのリフト&フォール、活性がやや高まる後半には大きめのリフトなどもスバイス的に加えて、その日の当たりアクションを探してください。

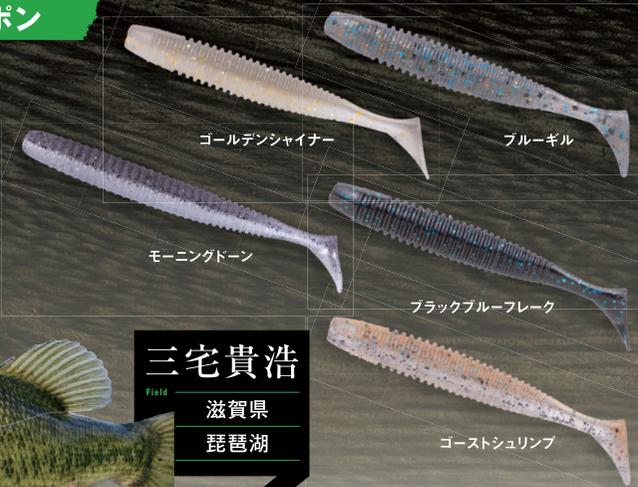
ブリッツMAX DR

荒天や雪しろなどにより濁りが入ったタイミングで、ビッグバスを引き寄せるストロングウエボン。重心移動なしでの遠投性能とその快適な泳ぎだし、そして絶妙な姿勢変化がこの時期の繊細なグラスへのタッチ&ゴーを的確にこなしてくれます。水深3~4.5mにある新鮮なグラスエリアで、フルキャストからのグラスにタッチ、そこから一旦浮上させ、また次のグラスへのタッチへ誘導する「タッチ&ゴー」の使い方がセオリー。低活性な時ほどこの浮上アクションにバスがてきめん反応してきます。

究極のファイナルウェポン

HPシャッドテール2.5インチ・ライトダウンショット

厳冬期の2月は、基本的には超厳しい期間。この時期にどんなルアー、釣り方にもバスからの応答なし。もしくは超ショートバイトでフッキングに持ち込めない。またはこの時期特有のひとつのエリアに人が固まり、ハイプレッシャー状態のときなどに、1バイトを得るために投入する究極のファイナルウェポン。4lb前後のライトラインとスピニングタックルを使用し、2g前後のシンカーにマスバリ、約20cmのリーダーを組んで、移動距離を極力なくした丁寧なアプローチを。グラスに引っかけた際にも軽量シンカーであればわずかなロッドさばきでハングオフが可能なので、しっかりルアーをバスの目の前に送り込むことができます。ショートバイトも2.5インチにマスバリというセッティングのおかげで非常に吸い込みがよくフッキングまで持ち込みやすいですね。



三宅貴浩

Field
滋賀県
琵琶湖

Pro Staff's

O.S.Pプロスタッフがおすすめる、この時期に外せないルアー

RECOMMEND

そのフィールドに精通するO.S.Pプロスタッフが、シーズンパターンをもとに必携のルアーをご紹介します。

これさえ持っていけば、確実にバスは釣れる!!

バスのポジションを的確にとらえて釣りをアジャストすることが重要

例年2月の琵琶湖南湖の状況は最低水温をマークする前半と、水温が少しずつ上昇バスが春を意識しはじめる後半でエリアやパターンが変化します。前半はボディウオーターに良質のグラスが絡む水深4m前後の、バイトが固まる狭いエリアが中心。後半は日照時間が長くなるにつれて、水深2m

前後のシャローレンジや浅瀬の上がった場所にある新芽のグラスエリアなど広範囲にバスが散ります。このバスのポジションの変化を的確にとらえ、釣り方をアジャストすることで、ビッグバスをキャッチできるでしょう。キーワードは「良質の残り&新芽のグラス探し」と、「釣り方のアジャスト」の2点ですね!

Takahiro Miyake

KEEP IT ON THE DOWN LOW

これは、ここだけの秘密

並木敏成が語るあのルアーの真実

と いうこと で …

Theme

晩冬から早春に欠かせないi字系の釣り

このパンフレットを手にした、あなただけが知ることができるあのルアーの真実と、本当の使い方。

水温が上昇傾向にある早春から春の釣り 桜が咲くころになるとようやく安定する

今回は2月から春にかけての釣りについて解説しよう。最低を記録していた水温が上昇しはじめる2月中旬以降、4月中旬ぐらいまでのプリスポーンのタイミングでは、同じパターンで釣れることが多い。ただし前半はムラっけが多く、桜が咲く頃になってようやく安定感が出はじめる。したがって3月上旬ぐらいまでは、冷え込んだときに冬っぽい釣りをする必要があるので、ここでは水温が上昇傾向にある早春のパターンについて話を進めたいと思う。

暖かい日にはボトムの水よりも当然、表層に近い水のほうが温くなる。バスだけでなくベイトフィッシュも表層から中層にサスペンドするようになるわけだ。そんなとき、王道はサスペンドミノール。アシュラやヴァルナ、ルドラなどのトウィッチ&ポーズ、もしくはただ巻きで攻めるのだが、これではアピールが強い、またはスピードが速い、と感ずることがある。そんなときにドハマりするのがi字系



ルドラやヴァルナ、そしてアシュラといったサスペンドミノールは早春期の王道。O.S.P.ではこれらラインナップも充実している

一瞬で通り過ぎるルアーをバスが追えないとき 究極の食わせを演出できるのがi字系ルアー

水温が低く、それにともなってバスの活性も低い場合、一瞬で通り過ぎるルアーを追わないときがある。そんなときの対応策としてリトリブスピードを極めてスローにするか中層に止める、あるいは超スローシンキングにする、という選択肢が存在する。これらの策を得意とするのがi字系ルアーである。

本来、この手の釣りについて、自分ももっとマッディウォーター寄りのフィールドや、野池および水路のような小場所、そしておかつぱりスタイルなどでも、もっと試していくべきだと思っている。プレッシャーがかかった狭いプロダクティブゾーンこそ、極めて弱いアピールで

通す、もしくはバスがいる層に長時間とどめるべき。そんなテクニクこそまさに、究極の食わせではないだろうか。

どうしても、クリアライザーや富士五湖など

早春のリザーバーにおいて、i-Waverで手にしたビッグバス。i字引きにしか反応しないセレクトティブな個体を攻略することに成功した

のようなクリアレイクのイメージが強いi字系ルアー。しかし近年では霞ヶ浦水系で見ても春のシラウオパターンのように、i-Waverやジグヘッドリグを使ったi字引きでしか反応しない、セレクトティブになったバスを釣るテクニクとして注目されつつある。

i-Waver、HPミノール、そしてマイラーミノール O.S.P.が誇るi字系の御三家とその使い方

O.S.P.のラインナップの中で、i字系と聞いてまず思い浮かぶのがi-Waverではないだろうか。i-Waver74SSSはほぼサスペンドに近いスーパースローシンキングに設定されているのはすでにご存じのことだろう。広範囲を探るときはもちろん、ロングキャスト。おかつぱりで例えば水門や小規模水路などの「ここ!」というスポットへのアプローチでは、ピッチングで正確に入れてステイ。するとどこからともなくバスがわいてくる… その光景に度肝を抜かれることもあるはず。ここぞという場所ではやすやすとあきらめず、そこにi-Waverをとどめさせ続けるつもりで待つてみては?

やや早めにi字引きをするときは、スナップを1サイズ上げる、ときにはオモリを貼るなどのチ

ューンで対応することもある。トリプルフックが2本ついていることにより、ワーム以上にフッキングが決まるといふメリットは心強い限りだ。スモラバなどを水面上にある木の枝などにラインを引っかけて宙吊りにし、中層でロングシェイクorステイさせて食わせるという釣り方をご存じの方も多いただろう。この手の釣り方は吊るすものがあってこそ成り立つ。ここでご紹介したi-Waverの釣りは、いわば究極のサスペンド釣法。スモラバのちようちん釣りと同じ焦らしの効果がありながら、オープンウォーターで演出できる。吊るすものを必要とせず、バスを焦らして食わせることができるテクニクである。

次に、昨年の6月に発売となったHPミノール3.1インチ。i字引きのベストシーズンは春なのだが、みなさんの手に行き渡ったのは夏近くになってしまった。そのため、本来のポテンシャルを体感した人はまだ



i-Waverの釣りは、水の中において「ちようちん釣り」のような焦らし効果を得られる。ラインを引っかけて吊るすものを必要としない



HPミノール3.1インチはi字引きでバスを寄せ、ターゲットアクションで食わせるだけでなく、リールリングスピードを上げればテールを小刻みに震わせて、小魚の尾びれの動きを忠実に再現。さまざまな動きでバスを魅了する

少ないだろう。なのでこの春、ぜひその威力を味わってほしいと思う。スローなi字引きに魅せられたバスを、トウィッチングによって生まれる美しいターゲットアクションで食わせる。またはリールリングのスピードを上げて、ボディ後半に入った貫通型スリットを小刻みに振るようアクションさせる。この効果によって、まるで小魚の尾びれのようにテールを振りながら逃げる様子を演出する。これらアクションにバスは思わず飛びついてしまうだろう。

ノーシンカーで使う際、マスバリスタイルであればフックポイントを下向きにセットする通し刺しもあるのだが、普通にチョン掛けで使用してもまったく問題ない。根掛かりが多いようであれば、T・N・Sオフセットの#3もしくは#2をおすすめしたい。フックのセット方法についてはO.S.P.動画で詳しく解説している



HPミノール3.1インチの、フックをセットする方法について解説している動画はこちら!



北浦のシラウオパターンで見事にハマた、O.S.P.プロスタッフのマッシュ。使用したのはHPミノール3.1インチのディスコグリン。ジグヘッドは1/32オンス

参考までに各ワームにセットするジグヘッドとそのウエイトについてご紹介しておこう。これらを基準に状況に応じて適宜、ウエイトの調整を行うといいだろう。



■HPシャッドテール2.5インチ
→FPJタイブラウンド1/16オンス・#1

■HPミノール3.1インチ
→FPJタイブラウンド1/32オンス・#1/0 or #1

■マイラーミノール2.5インチ
→FPJタイブラウンド1/20オンス・#1

余談だが、HPシャッドテール2.5インチおよび3.1インチに「しらうお」、マイラーミノールの両サイズに「まんまシラウオ」というカラーが追加ラインナップされる。霞ヶ浦水系をはじめ全国のシラウオパターンに、非常に期待されるカラーなので楽しみに。



HPシャッドテール・しらうお (2.5インチ & 3.1インチにラインナップ)



マイラーミノール・まんまシラウオ (2.5インチ、3.5インチともにラインナップ)

ナチュラルなアクションで焦らして食わせる オーバーリアルの表層パターンも有望

2月中旬からプリスポーンまでの暖かくなった日は、バスはより表層を意識する(スポーニングのタイミングになると、バスはベッドを作るレンジ以上には浮きにくい)。そんなときは、言わずもがなのトップウォーター。リザーバーの浮きゴミまわりではフロッグ、オープンウォーターではマイラーミノールのピクピクなどが非常に有効だ。

加えて、ぜひ試してほしいのがオーバーリアルを使った究極の焦らしアクション。例えばノーシンカーワームのワッキーピクピクは、焦らし効果こそ高いものの効率面は… さらにキャストのしにくさや、フックを刺す位置を含めたセッティングの難しさも……



オリキン監修によるO.S.P. WORKS LOCOの第一弾。これまでのフローティングジョイントミノールとは一線を画すアクションは、さすがオリキン。このルアーもこれからの時期に欠かせない存在だ

だが、オーバーリアルはそれらストレスを解消。ただ巻き、およびショートトウィッチ、そして放置。そのすべてのアクションが作り出すルアーの動きは、これまでのフローティングジョイントミノールとはまったく別物。ジョイント後方のボディはフックやオモリがない、ノーウエイトに設計している。結合部のダルマピンが1本であることも手伝って、リトリブ時に左右だけでなく、斜め方向、そしてロールアクションも交えながらくねりまくる(結合部を上下2本のヒートンやダルマピンでつないだとき、後方のボディは左右にしか振らない)。これにより生まれる波紋や、超スロースピードおよび放置にも対応する点はまさに、ワームのピクピクアクション。もちろんリトリブスピードを上げれば、普通のミノールイグのアクションとして使用することもできる。さらに両胸、およびテール部に配した特殊繊維の効果もあって、よりリアルさを演出。また合わせて、スモラバの微振動のような誘い効果を発揮。ワカサギやシラウオ、そしてオイカワといったベイトフィッシュが水面に浮きたがるこのシーズンの、マッチ・ザ・ベイトとなる。

まだまだ寒いものの、季節は着実に進んでいる。春本番を前に、ここでご紹介した興奮必至の釣りを試してみたいはかがだろうか。

Field Guide

冬本番。一匹のバスを手にするこさえ、非常に難しい季節が到来した。とはいえ、狙うべき場所を的確に攻めれば、至福の一匹を手にするこも難くない。そこで今回は身近なフィールド、野池を舞台に厳寒期のバスを手にするヒントをO.S.Pプロスタッフの中林正臣がお届けする!!

沖の深場 ◎ オススメ

オーバーライド1/8オンス
(寒鯛)

流れによるミオ筋

沖の深場

ヘラ台

ブレイクライン ◎ オススメ

ドライブシャッド3.5インチ
(ソフトシェルスモーク、
T.Nスモークレディー)

ブレイク

流れによるミオ筋

水門

ミオ筋 ◎ オススメ

HPシャッドテール2.5インチ
(ピンクワカサギ・ダウンショットリグ)

使い方は、スローなズル引きです。
沖の深場を狙う時と同じになります。

このイメージ図をご自分がよく行く野池に重ね合わせて、今回ご紹介した攻略法を試してみてください。寒さが厳しい中で手にする一匹は格別! Let's winter bassing!!



なかばやし まさひろ
中林正臣

野池から霞ヶ浦水系まで、活動範囲は広く、ときにBMCのトーナメントにも参戦。休日のほとんどをバスフィッシングに費やし、ひとかたならぬ情熱と研究心でバスフィッシングを突き詰める毎日を送っている。シャロ攻略を得意としており、特にスピニングタックルを用いたフィネスな釣りで安定した釣果を記録している。

流れこみ

野池はベイトフィッシュも小さいことが多く、フィッシングプレッシャーが高いので、もっとも軽い1/8オンスが基本になります。アクションはリフト&フォールで、沖の深い場所のサーチや、ボトムの硬さやベイトフィッシュが溜まっている場所を探りながら釣っていきます。

ブレイクライン ◎ オススメ

ハイカットF
(黒金オレンジベリー、リアルギルVer.2)

ゴロタ石

岬

使い方は、スローなただ巻きか、ロッドストロークで横方向に引いてきます。ロッドワークで細かくレンジコントロールし、底の障害物をかわしながら使うのがオススメです。

ブレイク
ライン

沖の深場 ◎ オススメ

HPシャッドテール2.5インチ
(ピンクワカサギ・1.8gダウンショットリグ)

流れこみ

沖の深場

水門

流れによるミオ筋

流れ出し

護岸・ゴロタ石 ◎ オススメ

ダンク48F(クラウン)

ゴロタ石

岸から斜め45度方向に投げて、ボトムに着くまでただ巻き。あとはワームのズル引きのようにボトムをトレースします。水中に沈んだ護岸やゴロタ石をイメージしながら使うと効果的です。スタックしても、止めれば浮いてくるFモデルで、できるだけ根掛かりを防ぎます。

アシ

ミオ筋 ◎ オススメ

ドライブクローラー3.5&4.5インチ
(ブラック、エビミソ・0.5~2gネコリグ)

深場にあるミオ筋を中心に、杭や沈んだ障害物が絡む場所や、筋の蛇行がきつい場所などを狙うのが基本になります。使い方はスローなズル引きとシェイク、軽いリフト&フォール。ドライブクローラーが勝手に仕事をしてくれることが多いので、ラインに出る変化(アタリ)を見逃さないことが大切です。

イラスト=マッシュモロッシュ

ディープで動けずにいるバスをどう食わせるかが釣果のカギ

2月の野池は、深場で動かずにいるバスをどう釣るか? がカギとなります。シャローに残る魚もありますが、9割以上がディープに移行するため、基本はディープ。タイミング次第でシャローを釣っていく、というのが理想的です。

多くの野池では、流れ込みと流れ出しがあり、それによってできるミオ筋が絡む深場に、杭や沈んだ岩などがある複合型が特にオススメです。またこの時期、他の魚もバスと同じような条件のスポットを好むことが多い点も覚えておきましょう。他魚種の存在が確認できたら、バスがいる確率も高いということです。

さらに、その日の天候や風も考慮します。太陽光の多い晴れの日、コンクリート護岸やゴロタ石が太陽の熱を吸収して、水温が上がりがやすく、そこにバスが差してきます。また、たとえ2月でも風は少しあったほうが経験上、釣りやすいですね。とはいえ、強風はよくないですが...

次に、具体的な狙うべき野池のタイプについて。水質は濁りがあるほうが水温が下がりにくく、もし凍ったとしても溶けるのが早いのでオススメです。また、規模が小さく、平均水深が浅い野池は、ルアーが届く範囲にバスがいることが多いので狙い目ですね。

あとは「減水」もキモになります。減水によって居場所がよりわかりやすく、バスの密度も濃くなります。加えて、バスのレンジにルアーを合わせやすくなります。

このような冬の野池で、狙うべきスポットがここでお見せるイメージです。ぜひ参考にしてみてください。